

## <2006 年度現代 G P シンポジウム開催の報告>

- ◆日 時 2007 年 2 月 18 日 (日) 13 時 30 分～17 時 00 分
- ◆場 所 奈良女子大学生生活環境学部会議室 A 棟 1 階
- ◆テーマ 女性が活躍できるまちづくり
- ◆主 催 奈良女子大学生生活環境学部現代 G P
- ◆参加者 地域女性リーダー育成事業参加者、他大学 G P 等関係者、一般、  
大学教員、学生他 約 50 名

### ◆内 容

#### ○基調講演：「複合メディアを使った地域おこし

～タウン誌・ラジオ・交流会から生み出すもの～

講演者 長田 朱美氏 (タウン誌うぶすな編集長)

奈良県生駒郡を中心とした西和地区で元気な女性を応援するタウン誌「うぶすな」の発行をきっかけに、FM ラジオ番組放送、交流会の開催、さらにそれらで培ったネットワークを 1 つにすべく、消えつつある地元の風景・文化を残すために、映画「あかりの里」の製作にまで活動を展開された経緯、熱い思いなどをお話いただきました。

#### ○2006 年度現代 G P 取組紹介：

本年度、現代 G P の事業に関わった学生が、取り組みの報告をしました。

1. 女性起業家から学ぶ、
2. 商店街活性化体験講座、
3. はじまりは正倉院展、
4. 奈良漬プロジェクト

#### ○パネルディスカッション：「女性が活躍できるまちづくり」

起業家、経営者、行政など、各立場で地域と連携した取り組みを実践される女性をパネリストにお呼びし、現代 G P を通じた大学・学生の取り組みも踏まえ、意見交換を行いました。

#### パネリスト

長田 朱美氏 (タウン誌うぶすな編集長)、加藤 雅子氏 (奈良県女性センター所長)  
北島 真理氏 (M' s ネット代表)、中野 聖子氏 (ホテルサンルート奈良専務取締役)  
コーディネーター 中山 徹 (奈良女子大学生生活環境学部助教授)

### ◆成 果

自ら複数のメディアを発信し、ネットワークの拡大を図っておられる実践例や、各立場から、女性が活躍するまちづくりの現状や課題についてお話を頂き、参加者一同、活力を得るとともに、各自の取り組みの参考とすることができました。また、参加者同士の情報交換、ネットワーク構築の機会ともなりました。

### ◆今後の事業への反映

参加者からは、地域性や大学の特性を活かした取り組みに対して評価を頂く一方で、より地域と連携した取り組みについて期待が寄せられたため、本シンポジウムにより構築されたネットワークをさらに活かし、今後の事業展開を進めていきたいと考えています。

# 2006年度現代GPシンポジウム「女性が活躍できるまちづくり」

日時：2007年2月18日（日） 13：30～17：00

場所：奈良女子大学生生活環境学部会議室 A棟1階

## ○開催の概要

現代GPでは、毎年、地域の変革を促すプログラムの一環として、また、本事業での取り組みを広く紹介する機会として、シンポジウムを開催しています。

本年度は、タウン誌の発行をきっかけに、様々なメディアを活用し、ネットワークや活動を拡大しておられる、タウン誌編集長長田朱美氏に基調講演をしていただくほか、起業家、経営者、行政など、各立場で地域と連携した取り組みを実践される女性をパネリストにお呼びし、現代GPを通じた大学・学生の取り組みも踏まえ、意見交換を行いました。

当日は、県内外から約50名が参加する中、パネリストからの熱意あふれる発言や学生からの実践的な取り組みについて、「今後の活動の参考になった」、「パワフルな女性たちの活動の様子を聞いて、活力をもらった」などの感想をいただきました。



シンポジウムのチラシ

## ○プログラム

時間	内容
13：30～13：40	開会挨拶：上野邦一
13：40～14：40	基調講演：長田朱美氏（タウン誌うぶすな編集長） 「複合メディアを使った地域おこし ～タウン誌・ラジオ・交流会から生み出すもの～」
14：40～14：50	休憩
14：50～15：45	2006年度の現代GPの取り組み 学生による取り組み発表 ・女性起業家から学ぶ ・商店街活性化体験講座・はじまりは正倉院展 ・奈良漬プロジェクト
15：45～16：50	パネルディスカッション 「女性が活躍できるまちづくり」 パネリスト：長田朱美氏（タウン誌「うぶすな」編集長） 加藤雅子氏（奈良県女性センター所長） 北島真理氏（M's ネット代表） 中野聖子氏（ホテルサンルート奈良専務取締役） コーディネーター：中山 徹
16：50～17：00	閉会の挨拶：上野邦一

## ○基調講演

講演者である長田朱美氏はタウン誌「うぶすな」の編集長をされています。「うぶすな」は奈良県生駒郡を中心とした西和地区で月 1 回発行されているタウン誌です。講演は、タウン誌発行にいたる経緯や複数のメディアを活かした活動、交流会から派生した活動など多岐にわたり、製作した映画の一部上映を行うなど豊富な内容でした。

長田氏の活動の原点は、結婚後の生活拠点である農村の生活の中で感じた、女性であるがゆえの閉塞感でした。地域の他の女性がどのように考え、感じているのかを知りたい、頑張っている女性に情報発信をしたいとの思いが長田氏の現在の活動につながっています。地元で 17 年ほどボランティア記者をする中でも長田氏は常に女性の視点での活動を念頭に持ち、活動をしてこられました。そして、困難に直面しながらも、5 年前に地域女性の活動の場を提供するというコンセプトで自らタウン誌を立ち上げられました。読者からの投稿を中心に紙面を構成する「寄稿型」を考案、原稿をメールでやり取りして編集作業を簡略化するなど、発行にかかる労力を最小限に抑える工夫や活動持続の秘訣の一端を紹介していただきました。実際に「うぶすな」の発行は母娘 2 人で行っておられます。現在では、公立図書館で保存されるなど、文化的な価値が公共機関でも認識されています。「メディアは勤めるだけではなく、自分で発信することができる」との言葉が印象的でした。

発行開始の 3 ヶ月後には、地域の FM ラジオの番組も担当することになりました。タウン誌に登場した投稿者が出演し、地域の文化人をゲストに招くなど人気番組に成長、活動のもう 1 つの柱となりました。タウン誌とラジオによる情報発信によって、タウン誌の情報のタイムラグを埋める役割をラジオが担うなど、相互に補完的な役割を果たしています。

タウン誌とラジオを通じて共通の話題を持つ人をつなぐ交流会を定期的開催、さらに、交流会から発展した文化活動についても一部紹介されました。また、交流会に映画製作関係者が参加していたことがきっかけで、地域から姿を消す風景など庶民の文化を映像で未来に残したいという声から映画を製作されました。映画製作の資金は、地域の商店街や一般の人々に寄付を募りました。映画は、東京、沖縄など県外でも上映され鑑賞者は現在では 3,000 人を超すそうです。映画が広がった理由は、市民活動であり非営利だからと長田氏は分析しておられます。

長田氏は、これらの活動から目の前のチャンスを確実につかむことの重要性を指摘、情報発信は一人から可能であり、まず自分から活動することが大切であると語られました。また、地域の文化活動の担い手は主婦か中高年であり、女性が活動の中核を担う必要があると結ばれました。



講演の様子



映画の中で登場した灯心

## ○現代GP取組報告

現代GPの取り組みである、「女性企業家から学ぶ」、「商店街活性化体験講座・はじまりは正倉院展」、「奈良漬プロジェクト」の3つの事業について報告がなされました。

### 1. 女性起業家から学ぶ

この授業は、女性起業家の起業体験や生活史を通して、女性にとっての働くことの意味と女性の起業が地域の活性化に果たす役割を考えるものです。授業では、起業家の体験談を講義形式で聞くとともに、班別に計画を立て職場訪問を行い、学生が主体的に「直接見て、聞いて、学ぶ」授業を展開しました。女性起業家へのヒアリングでは、結婚・出産などのプライベートに至るまで詳細な話を伺い、起業の意味を多角的に検討するに至りました。職場訪問後の学生の報告から「女性起業家は、地域、社会、人づくりを大切にしながら奈良に根ざした活動を行なっている」ことが分かったと総括しました。

### 2. 商店街活性化体験講座・はじまりは正倉院展

商店街活性化体験講座では、もちいどの商店街の24時間テレビ中継に連携して、イベントの企画・運営を行い、商店街活性化に対する理解と考察を深めました。イベントでは、商店街の中へ通行客・観光客を呼び込み、24時間テレビの実施をアピールするために「餅飯殿すごろく」を企画し、商店街への興味関心を喚起しました。企画を通じ、商店街の店主らとの交流を持つことができたこと、またイベント運営の難しさを経験したことで、より問題意識を明確にすることができたことと総括しました。また、「はじまりは正倉院展」では、スタンプラリーを企画し、その活動模様について報告。「M-house project」では、大学のセミナーハウスである町家を活用した展示空間のデザイン、設計・施工、展示の様子について報告を行いました。

### 3. 奈良漬プロジェクト

この取り組みは、奈良の魅力をより高めるために、奈良の伝統的な食材である奈良漬をより幅広い世代に身近に感じてもらい、これまでにない活用方法の検討や新たなレシピの開発を進めるものです。発表では、材料に奈良漬を混ぜあわせるタイミングが難しいことや、奈良漬が好きな人、嫌いな人のどちらに合わせればいいのか難しいなどの苦労話が紹介されました。すでに約60品目のレシピが考案されています。学外での試食会では、奈良漬が嫌いな人にも意見をもらうことができたことや、試食で人気があるメニューのランキングなどが発表されました。シンポジウム当日は、「奈良漬クッキー」が振舞われ人気でした。受講者の感想からは、「活動を通して奈良に影響を与えられたらと思い始めた」と地域との関わりを意識した意見や「メニューの開発を行い、栄養学的な面から研究を進めたい」、「他の人にももっと広めたい」など今後の活動への取り組みに対しても積極的な意見が聞くことができました。



学生による取り組み発表

## ○パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、地域で活躍されている4名をパネリストに迎え、活動内容や活動を通じて苦労した点を中心に話していただきました。その後まちづくりにおける女性の活躍の場について意見交換を行いました。

奈良県女性センター所長である加藤氏は、県庁に在籍中、農家の経営改善や農村地域の活性化を担当、農家の女性の活躍の場所作りに取り組んだことを紹介されました。農村で女性の活躍する場を作るには、地域に変革を起こすことが必要だが、行政職員という立場上どの程度アクションを起こすかが苦労したとのこと。茶産業を営む地域の女性を例に、まず一步を仕掛けることが大事であり、さらに経営という視点からお金の動きを考えながら活動をとらえることの必要性について述べました。M's ネット代表を務める北島氏は、夫の数回におよぶ転勤や育児経験を経て、女性センター企画の「企画作ろう講座」の受講をきっかけに起業を行った経緯について紹介されました。起業は、市民活動と異なり、利用者のニーズと企業としてのモットーと、何にお金を生み出すかを考えながら事業を進めることが重要であると述べました。ホテルサンルート奈良専務取締役である中野氏は、地域の観光活動にも積極的に参加し、成功を収めている「燈花会」の運営スタッフのメンバーでもあります。観光地である奈良をアピールしたいという思いが募っていたところに「燈花会」と出会い、奈良がさらに魅力的な町になるように奔走されています。自ら活動し、そこでの出会いを大切に、またそこから次につなげることが大切であることを熱く話しました。「うぶすな」編集長の長田氏は、女性と男性がバランスよく事業を進める「男女共同参画」の難しさや、女性でも周りに遠慮せず自らが持つ力を発揮することにより、これから動き出す女性たちのモデルとなるような頑張りを見せることができればいいのではと述べました。

講演後会場からは、活動の中での男性と女性がどのように関わっていけばよいか、男女共同参画社会について真剣に考える必要性について意見が出されました。会場の女性起業家からも男女共同参画社会の実現の難しさや、男性、女性が双方に当てにし当てにされる関係はお互いの関係作りの中から学び合うことが大切であるという意見が出されました。

最後に宮坂靖子助教授は、まちづくりの視点が「女性が活躍できるまちづくり」から「女性が男性と共に協力してできるまちづくり」に移行してきていることが講演からわかったことや、地域、ジェンダー、世代が重要な柱になっていくこと、さらに世代間の関わり方も含めた持続可能な変革が求められており、これらを考慮してまちづくりを進めていくといいのでは、と結びました。



パネルディスカッションの様子



会場の様子